

ご踐祚・改元

四月一日に新元号の発表、そして四月三十日～五月一日にご讓位、新天皇陛下がご踐祚になり、五月一日午前九時から月次祭にあわせて踐祚改元奉告祭を齎行しました。

ちようどこの時期の御代替わりとなったことで、平成最後のご朱印、令和初めのご朱印を求める参拝者で全国の神社仏閣は大変な賑わいとなりました。四月三十日・五月一日と両日のご朱印を求める方も少なくなく、ご朱印ブームのなかで予想されていたことではありましたが、ご朱印を集めている方にとどまらず、全国的な神社参拝ブームの観を呈しました。平成の時代を送り、新しい令和の時代を迎えるというところで、昭和から

平成への御代替わりと違って明るい雰囲気の中であつたこともあり、あたかも年末年始のような気持ちで参拝する方も多かつたようです。

平成の御代と上皇陛下への感謝の気持ちを表わす人々のことばを見ていると、昭和末期に昭和天皇のご平癒を祈り、また追悼の祈りを捧げたのと同様の人々の気持ちですが、今回は時代の節目の神社参拝という形で表われたように思われます。平常の多事に流されがちななか、災害の際に思いやりの気持ち



ちや人の絆の大切さを思い起こす人が多いですが、御代替わりのような特別な時には真摯な祈りの気持ちがおのずからに表われるものだと思ふかされた次第です。

御代替りに当って、平成六年十月に天皇皇后（現 上皇・上皇后）両陛下に御親拝いただいた折を振り返り、平成の御代と両陛下に感謝の誠を捧げるために、御親拝の折の写真展を「平成の和（なごみ）」と題して開催しました。上の写真の「平成の和」は、これを案内するものです。

新元号・令和

令和の元号が発表されてから、その出典や意味についてさまざまなか場で紹介されました。「令月」は中国で二月の異称ですが、出典とされた万葉集の歌の序文では「初春令月」とあるので、一月の美称として使われたこととなります。



梅見の宴会の歌ということ、奈良時代には梅の花が大陸渡来の珍しい花であつたことから桜よりも珍重されたこともあらためて認識されました。あらためて日本最古の歌集である万葉集を振り返る人が多かつたことも喜ばしいことでしょう。当時の日本人の漢文の常として中国の古典を典拠とした語句が多く、万葉集のその序文も中国の古典にある語句に基づいているとも紹介され、日中文化の融合した元号でもあるといえます。

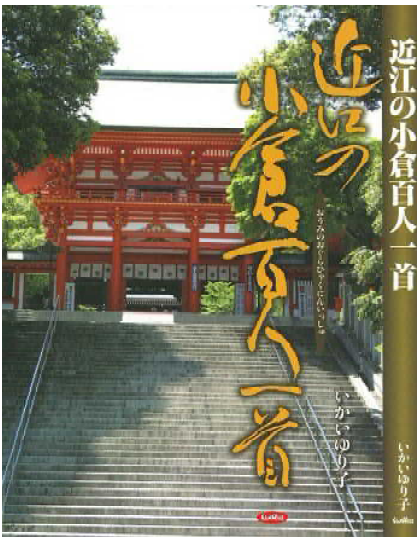
ラ行音で始まる元号は大変珍し

く、今までに三例があるだけ（霊龜・曆仁・曆応）で、令の字は初めてです。珍しいだけに斬新な印象があり、好感を持たれたことにつながったかもしれません。令の字は命令の令だと感じた人もあつたようですが、「跪いて神意を聞く人」というのが原義で、いわば神職のような、神と人との仲介者を表わすとされます。神意を聞く人から転じて、神意・神のお告げそのものの意味となり、「神の命ずるところ」から、命令のような意味に変わって行ったとのこと。神意に従うところから善の意味になり、美しく立派なことを表わす意味となります。なお、命令の命も令に口を付けた文字で、「神に祈って啓示として与えられるもの」を表わすとのこと。す。

令が下に付くと、命令・法令・指令などのように指示したり命じたりすることを表わしますが、上に付くと令嬢・令名などのように立派な、美しい、優れているという意味のことばになります。その意味で、令和の意味の英訳として海外向けに、beautiful harmonyと発表されたことは間違いではないといえます。

『近江の小倉百人一首』

いかいゆり子（猪飼由利子）氏『近江の小倉百人一首』が彦根市のサンライズ出版から



のサンライズ出版から出版されました。いか氏は湖南市在住で

『近江のかくれ里』

『近江の芭蕉』の著書

もあり、滋賀県レイカ

ディア大学などで近代

文学・古典文学の講師

も務められ、滋賀県関

係の文学に造詣が深い

方です。

百人一首の歌のうち、第一番の天智天皇の御製をはじめ近江国関係の二十九首について、歌の解説、歌と作者のゆかりの地の探訪記と関連事項、歌碑の所在等々について平易に述べられています。競技かるた大会など歌かるた関連のことにもページを割いて紹介しています。一般書店でお求めいただけますが、近江神宮時計館・近江勧学館でも扱っています。（税別二〇〇円）

佐久奈度神社一三五〇年祭

滋賀県には天智天皇にまつわる伝承や創建伝説のある神社仏閣が多いのですが、その一つに佐久奈度神社があります。天智天皇八年（六六九）に右大臣中臣金に勅使として祓をさせたことに始まるいわれ、平安時代には京都周辺の有名な七か所の禊祓の名所である七瀬の祓の一つでした。その年から一三五〇年を迎え、五月に一三五〇年祭が行われました。昨年は日吉大社の西本宮が大和の大神神社から勧請して一三五〇年を迎えました。

本年後半の祭典行事

七月五日午前十一時

燃水祭

七月十九〜二十一日

全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

八月二十四日午前十一時

弘文天皇祭

八月二十五日午後一時

献書祭（全国献書大会表彰式）

十一月七日午前十一時

御鎮座記念祭

十二月二日午前十時

初穂講大祭

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi.jingu.org/>「日供神饌講」ページ